

## 序

深刻化する世界的不況と政府の緊縮方針は直ちに我が通信産業の上にも多大の影響を與へた。我が通信友同志會又緊縮方針に依る、選任下級従事員に對する飽くなき支配階級の強襲と全力的闘争をなした多くの功績を挙げた。

政府が行詰れる財政打開の爲めに採れる諸政策は悉く無産階級に犠牲を強ひ、資本家階級に迎合せんとする、所謂資本家的政策に盡きて居たのである、斯る政府の態度は其の根本に於て資本家階級の援助なくしては存立し得ない處にあるのである。即ち政府が昭年六年度豫算の編成期に當つて、各省豫算人員費の五分減、電話、製紙事業の民營化を策した所以も又此處にあるのである。

備かる政府事業を資本家の喰物とし、而かも一方に於いて政府使用人を失業の巷に追いやり、勞務の加重を以てする此の暴舉に對して我等は敢然と起つて反對し、良く之と闘つて人員費五分減を三分減とし、電話製紙民營は事實上立消に終らしめ得たのである。

然し乍ら三分減豫算は公共事業たる通信事業運行の上に、幾多従事員に對する勞務加重、待遇低下と事業縮小等殊に電話擴張工事繰延等の犠牲を招來せずには置かなかつた。即ち我等は之れに對しても不斷的努力を以つて、政府方針の誤れる點を指摘し、其の反省を促し相當の實績を挙げたのである。

斯くの如くして我等は、政府の誤れる緊縮方針の齎らず、幾多の問題を階級的立場に起つて闘ひ掛け、多くの功績を挙げたのであるが、一部頑迷なる當局者は豫算減、人員整理に藉口して、不當なる壓迫を本會組合員の上に加へんとしたのである、其の第一は貯金局經理課に於ける不當解雇であり、次は東・工方面に於ける不當所屬替の命である。貯金局問題は我等が圓滿解決の爲めに努力した一ヶ月餘に渉る十數回の交渉も効なく遂に四月三十日の東京地方組合員の總動員となつたのであるが、選任次官との最後の接衝に於いて解決條件成立し好結果を得、東・工方面の所屬替も有利に解決したのである。